

1 産地の概要

＜対象地域＞ 坂東市、境町、古河市、常総市

＜対象品目＞ 小麦（「ゆめかおり」）

＜産地の現状・課題＞

- ・当地域では、パン用小麦「ゆめかおり」のみを生産する「茨城パン小麦栽培研究会」が生産者8名で組織されている（平成30年産の産地規模：約70ha、330t生産）。パン用小麦はタンパク質含有率13～14%を求められ、この目標を達成するためには出穂期の追肥がポイントとなる。
- ・適正な追肥量を把握するため、現在は、普及指導員が出穂期に全圃場（360圃場）の葉色（SPAD値）を測定し、生産者はSPAD値に応じて追肥を実施している。
- ・しかし、急速な「ゆめかおり」への品種転換に伴い圃場数が増加しているため、SPAD測定が労力的に難しくなっており、追肥判断の効率化が必要である。

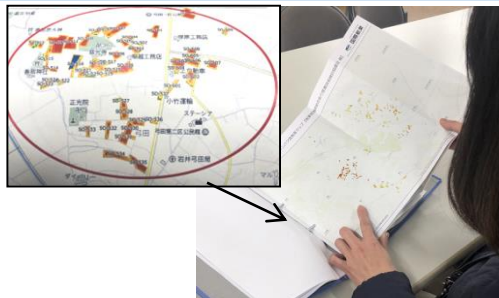
2 検討体制

＜坂東地域ゆめかおり営農技術検討協議会構成員と役割＞

- ・茨城パン小麦栽培研究会（役割：検証に必要な栽培管理）
- ・日立製作所、日立ソリューションズ（役割：衛星画像データ分析等）
- ・農業総合センター・農業研究所（役割：技術アドバイス）
- ・坂東普及センター（検証技術の普及支援、技術アドバイス）
- ・坂東市・境町・古河市（地産地消の推進支援）



検討会の様子

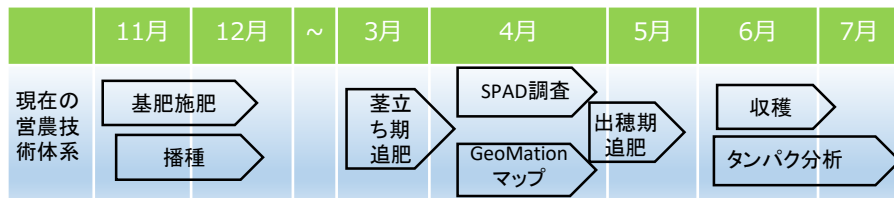


衛星画像検討の様子

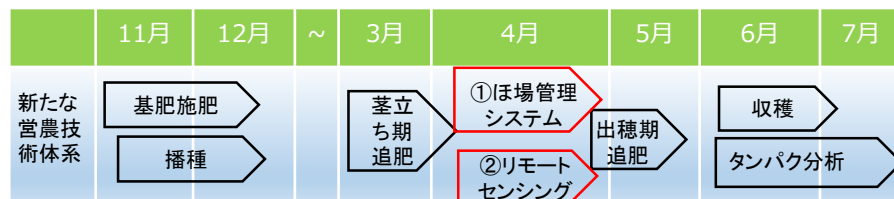
3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

ほ場管理システムと連動させた全圃場のリモートセンシングにより、効率的に出穂期の葉色を把握することで、適切な追肥判断を可能とし、目標タンパクを達成できる麦産地をめざす。



- ①ほ場管理システム（アグリノート）導入
- ②リモートセンシング（天晴）導入



＜新たな営農技術体系の効果（検証結果）＞

【現状】SPAD調査からのマップ作成：11日

→ 衛星画像からのマップ作成：1日 **約9割↓**

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R2	R3
茨城パン小麦栽培研究会	衛星画像からの追肥管理	
普及センター	補完的SPAD調査・衛星画像活用技術の普及活動	
農業総合センター・農業研究所	追肥量の技術アドバイス	